

彼<sup>かれ</sup>  
一<sup>いち</sup>  
語<sup>ご</sup>  
我<sup>われ</sup>  
一<sup>いち</sup>  
語<sup>ご</sup>  
秋<sup>あき</sup>  
深<sup>ふか</sup>  
み  
か  
も

高<sup>たか</sup>  
浜<sup>はま</sup>  
虚<sup>きよ</sup>  
子<sup>こ</sup>

令和3年10月号  
令和3年10月1日発行（毎月1日発行）  
第22巻 第10号 通巻259号

# 秋深む

『六百五十句』（昭和三〇）所収。昭和二十五年十月二十八日作。我も彼もともに寡黙、対座しつつ、ぼつりぼつりと言葉を交わすのみである。ともに生きてきて言葉を交わさずとも通じあえる交りなのだ。「秋深みかも」もその場の空気の静謐さを感じさせる。彼も我も人生の深秋を迎えた老人であるうが、巖と巖とが話しているような趣である。【秋深む・秋】

澤 10月号 目次

いのちの詩、友情の文学

特集記事「澤の十句」選句募集……………4

澤通信句会のお知らせ……………6

小澤 實 気泡の中 十五句……………10

高橋睦郎 季語練習帖 第一四二回……………12

潺湲集 小澤 實選……………14

一面 森永一正 信州湾 大谷景子

五十年 大野善雄 すずむし 嶋田恵一

外葉 天野正子 うそ発見器 生井敏夫

箱型 川上弘美 叡智人 池田瑠那

ほの苦し 結城あき さまあみよ 小夜

臂 赤岩 覺 お詫びがほ 菱田嘉春

声入力 服部つぐみ

波立つ 松野篤子

ゼリー 栗生

澤俳句鑑賞 257

小島ゆかり……………20

石田秀子……………22

窓

俳書を読む

大串 章『恒心』／小島 健『山河健在』／今井 聖『九

月の明るい坂』／森 潮『種子』／皆川 燈『朱樂ともし

て』 加納 燕……………24

詩文学芸書を読む

小野和子『あいたくてきぎたくて旅にでる』

根岸哲也……………26

総合誌俳句鑑賞

「俳句」八月号／「俳壇」八月号 柳元佑太……………28

俳句結社誌を読む

「知音」令和三年五月号 大木由美子……………30

通信句会の秀句 村越 敦……………32

潺湲集巻頭作家インタビュー 中山雅弘……………34

澤集巻頭作家エッセイ 今朝……………35

俳句を豊かにするもの

言葉の手触り 花岡安佐枝……………36

中学校の授業に参加する オオタケシゲヲ……………37

同人代表句 河辺柚里／及川 澄……………38

同人一句鑑賞 白崎俊火／塚田見留……………39

澤衍……………40

澤四十句 小澤 實選……………42

選後独言

ぎりぎりの略語 小澤 實……………44

澤集 小澤 實選……………46

おきのきらら／戸川由紀子／大室ゆらぎ／光本蕃茄／井上

雅恵／瀬川耕月／篠崎弥生／森山くるみ／平野セイコウ／

宮田應孝／蔵田かをり／山口刃心／渡邊のぶお

正誤表……………79

消息／9月号発送報告……………80

澤俳句叢書一覧……………81

雑誌「澤」購読のご案内／購読料更新のお知らせ／

澤基金募集のお願い……………82

澤基金応募者芳名／投句のご案内……………83

澤句会・カルチャー一覧……………84

広告……………85 後記……………90

デザイン||玉井一平

澤  
令和3年10月1日発行  
澤 俳句会  
頒価 1,200円

表紙／小澤  
實著『秀句三五〇選友』より